



第20回ローカル5G検討作業班における 指摘事項について

令和 6 年 3 月 2 7 日
事 務 局

第20回作業班における主な指摘

■事務局において、前回作業班(第20回)におけるご指摘について、以下のとおり要点を取りまとめた。

	指摘要点	対応
三瓶主任 中村構成員	<ul style="list-style-type: none">● 4.9～5.0GHzの帯域について、今後割当てが想定される<u>全国5Gとの隣接帯域での共用条件</u>についても検討すべき。	資料21-2でご説明 【ドコモ・テクノロジー】
山尾主任代理	<ul style="list-style-type: none">● <u>海上利用の場合、高度の高いところで移動局を使用するニーズがないのか、実際に利用を想定している方々に確認した方が良い。</u>● 共用条件について、海上利用の場合も<u>利用形態が地上の場合と変わらないのか確認した方が良い。</u>	ニーズについての確認結果は次ページの通り 共用条件における利用形態の考察については、資料21-2でご説明 【ドコモ・テクノロジー】
中村構成員	<ul style="list-style-type: none">● <u>ミリ波について、熱効率の高い建造物の侵入損をITU-R勧告のまま適用するのが適当か、議論が必要。</u>	資料21-3でご説明 【中村構成員】

海上利用に係る端末の利用形態に係るヒアリング結果

■端末を海上利用する際の利用形態について、海上利用に関して要望のあった4社に対してヒアリングを行った。結果は以下のとおり。

	端末利用の海拔高（想定）	端末利用場所（想定）
A	<p>基本的には、海拔高数メートル程度を想定。</p> <p>①ボートレース場（1～2メートル程度） ②船のドックやその周辺等での利用（3～5メートル）</p>	ボートレース場付近での船舶等や、修繕ドックやその周辺の海上における船舶での利用等
B	<p>基本的には、海拔1.5メートル程度での利用を想定。</p> <p>なお、以下の通り、一定の高さで端末を使用する可能性もある。</p> <p>具体例： ①洋上プラットフォーム上でのメンテナンス作業（～数メートル） ②船舶で海上構造物に近接しての作業（海拔1.8メートル程度） ③SEP船※による洋上プラットフォーム建設工事作業等（5～41.5メートル） ※SEP:Self Elevating Platform 船体をジャッキアップさせることで海面から切り離し、波浪に左右されない作業条件を海上で確保することができる作業船</p>	海上構造物周辺、係留構造物等が移動し得る範囲内等
C	<p>海拔で数メートルから、将来的には、最大200メートル以下を想定。</p> <p>①水中ドローンとの通信（有線接続されたブイ経由で通信）（1.5メートル以下） ②風車の海面デッキでの作業(20メートル程度) ③風車作業員連絡やウェアラブルカメラでの利用※（将来的には最大200メートル） ※風車のナセル（風車のローター取付箇所）以下での作業を想定</p>	洋上の風車のナセルより下の部分、デッキ、その周辺
D	<p>海拔1.5メートル程度を想定。</p> <p>①湾内での小型船舶操作の自動化（1.5～2メートル） ②養殖場での利用（1.5～2メートル） ③海洋センサでの利用（1.5～2メートル）</p>	湾内（船舶上、養殖場、センサ等）